

令和7年度大阪府三島薬事懇話会 議事概要

日時：令和8年1月28日（水）午後2時から午後4時

開催場所：大阪府茨木保健所 5階 大会議室

出席委員：委員総数11名のうち10名出席

三宅委員、加藤委員、石田委員、大月専務理事（代理出席）、西原委員、松浦委員、馬場委員、村上委員、谷内田委員、原山委員

■議事1 会長の選出

互選の結果、加藤委員が会長に選出された。

■議事2 災害時薬事体制に関する取組状況等について

資料に基づき、健康医療部生活衛生室薬務課から説明。

大阪府地域防災計画における災害予防対策及び災害応急対策での災害薬事コーディネーター（地域災害薬事コーディネーター）の活動内容及び配置について説明。また、令和7年11月29日（土）に実施した地域災害薬事コーディネーター養成研修について報告。

■議事3 地域における薬事関連の災害対策について

資料に基づき、各地域薬剤師会から災害対応に向けての取組みについて報告。

<茨木市薬剤師会>

会員薬局の連絡ツールの整備、医療救護所となる小中学校への災害用備蓄医薬品の配備と課題点について説明。茨木市薬剤師会として医薬品備蓄センター（医薬品卸売販売業）を所有していることを報告。

<摂津市薬剤師会>

会員薬局の在庫医薬品情報の可視化（eST-aid システム）及びお薬手帳の必要性と啓蒙活動について説明。

<高槻市薬剤師会>

医療救護所別の担当薬局及び在庫医薬品等の一覧（特に局所麻酔薬が圧倒的に少ない。）、任命された地域災害薬事コーディネーターと発災時の参集場所について説明。災害医療救護訓練についての報告。

（意見等）

○島本町では救護所は1か所であり、地域と連携を行いながら必要な医薬品は提供いただけることは確認できている。

■意見交換

（意見等）

- 病院での災害時対策の一つとしてBCP等を作成しているが、シチュエーション毎に地域の薬局等と連携した訓練を行う機会が無い。
- 病院での災害訓練を受け、現在懸念されていることは、患者の搬送ルートの確保が困難であることや、発災前からの入院患者と発災後に運び込まれた傷病者との切り分けに関する事等である。外来患者の受入れにかかる薬局等との連携や薬歴情報の共有等、医療機関のみでの訓練では立ち回らないのではないかと思う。
- 病院の機能にもよるが、超急性期で必要となる消毒薬や麻酔薬を他の救護所にどのくらい提供可能なのかなど、協定又は申し合わせなどの事前準備が必要である。
- 発災時の中核的役割となる機関を決めておくべき。
- 災害に対して準備はしていても、実際に発災しないと分からないことも多い。現時点で不足が判明していること（参集できる人、医薬品の運搬等）は検討しておくべき。消毒薬や局所麻酔薬等不足と思われる医薬品については、できるだけ今のうちに行政が地域の薬剤師会と連携を図りながら備蓄等の準備をしていただきたい。
- 歯科医師会でも各院の在庫状況を把握しておくことで、有事の際は局所麻酔薬等を共有できるかもしれない。
- 茨木市薬剤師会でも eST-aid システムの導入を検討しているところ。こういうシステムは広域に展開・公開していき、行政にも見えるようにしておいた方が良い。ただし、システムの導入及び維持には費用が掛かる。防災の観点からご協力いただけたらありがたい。
- 高槻市薬剤師会でも eST-aid システムの導入を検討している段階。
- 医療区分（行政区分）について、摂津市の患者の動線は明らかに吹田市の病院である。保健所や行政で、お互いがどのような動きをするのか等を共有し、事前に協議をしていただけたらありがたい。

以上